

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	平成 29 年度第 2 回松阪市健康づくり推進協議会
2. 開 催 日 時	平成 29 年 11 月 6 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時
3. 開 催 場 所	松阪市健康センターはるる 3 階健康増進室
4. 出 席 者 氏 名	委員 16 名内 10 名、顧問 1 名
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2 名
7. 担 当	松阪市健康福祉部健康づくり課 TFL 0598-20-8087 FAX 0598-26-0201 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 平成 29 年度健康づくり事業の報告
2. 平成 30 年度健康づくり事業実施計画について

議事録・委員名簿

別紙

平成 29 年度第 2 回松阪市健康づくり推進協議会議事録

事 項	発 言	内 容
開会 13：30	課長	只今から、「平成29年度 第2回松阪市健康づくり推進協議会」を開催させていただきます。 本日は、皆様におかれましては、大変お忙しいところご出席を賜り、誠にありがとうございます。 私は、健康づくり課長の白藤でございます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。 まず初めに開催にあたり、本協議会長からご挨拶をいただきたいと思います。
	会長	(会長挨拶)
	課長	ありがとうございました。 本日は、中村文彦様が遅れると伺っております。太田正澄様、横井美登様、堤康雄様、松井訓子様、水谷勝美様、村林恵子様が、ご都合により欠席でございます。 本日の協議会は、委員 16 名のうち、<u>出席者 9 名</u>で、規則第 7 条により成立していることをご報告させていただきます。(※中村様開会後みえて、出席者 10 名となる) さて、次の事項に進みます前に、資料のご確認をお願いいたします。 ・事項書、委員名簿、平成 29 年度健康づくり事業報告、平成 30 年度健康づくり事業実施計画（案）、資料 1 利用者アンケート自由記載 以上が本日の資料でございます。 これより、事項書 2 の協議事項に入りますが、議事・進行につきましては、規則第 7 条により、議長となられる会長様にお願いし進めてまいりたいと存じます。
協議事項 13：35	議長	それでは事項書 2 の協議事項（1）平成 29 年度健康づくり事業報告について、事務局より説明願います。
	事務局	事業報告について説明
	議長	ただいま事務局より説明のありました平成 29 年度健康づ

13 : 50	委員	くり事業報告について、ご意見、ご質問はございませんか。 特に子育て世代の女性ばかりでなく男性も対象にするのは非常に良いことだと思います。ただ教育は年をとった人にするほど難しいことはない。やはり始めるのは子どもの頃からの教育が進んでいるべきであろうと思います。例えば生活習慣病は大人になってからなる病気ではなく、子どもの頃からの生活習慣からなっていくものであり、食事のとり方、あるいはとる時間帯など色々教え、子どもの時に理解させる必要があります。今日は学校の先生もおみえになりますが、ぜひ各学校を定期的に年間何回と、きちんと子どもの頃から生活習慣の元になるような生活習慣をさせない。あるいは救急で、ものすごく問題になっていますが、発熱でなんでもかんでも救急病院を訪れられる、「いつから熱があったのか」「昨日から」ということがよくあるのですが、熱が出た時の対応の仕方、ちょっとした咳の時の対応の仕方、そういう健康あるいは病気に対する簡単な処置訓練、初期訓練、最初にどう対応するかということ。昔はおじいちゃん、おばあちゃんがいてくれて、こういう風にしたらいいとやってくれるのですが、今は核家族だからそれができない。しかも仕事に行っていて誰もいないような時に朝から子どもが咳をするといった時に子ども達が、体に異変が起こった時にどういう対処の仕方があるのか小児科の先生全部、表とか持ってみえると思うので、学校単位で全ての学校に年間何回かに分けて、きちんと子どもの時から健康あるいは生活態度を変えていくということについて教育する。それを親に子どもの口から家の中で言わせる、大人にあれしましょうこれしましょうと言っても、たくさんやることがあるのですぐに忘れてしまうんです。子どもは案外そういうことをしっかり覚えてます。家に帰ったら必ず家族に伝えるよう言えば必ず言うと思いますので、教育の現場の小学校や、あるいは教育委員会ともきちんと手をつないで計画案を作って。確かに仕事が増えて大変だと思いますが、大人に教えるよりも子どもにしっかり教えることの方が充実した内容で理解もし、しかも将来的に有効に働くこともできると思うので、頑張って伸ばしていただきたいと思います。 議長 後半の発言につきまして事務局ご意見ございませんか。
----------------	-----------	--

	課長	後半の救急のことについては、学校ということもありますが、私共としては学校とも当然協力はしていきますが、1 歳半・3 歳児健診も来ていただきますし、小さい子どもさんのお母さんやお父さんがここを利用していただいた何かの機会に救急等のことについても保健師から説明をして、冊子等も渡させていただいて対応していきたいと思っております。
	委員	今、努力をしてみえるのは十分わかるので、それで十分ということでは決していないので、今後いかに事業を増やしていくか、充実していくかが大事だということを言いたいので。例えば子育て世代の男性に教育するのはとてもいいことだと思います。ただ、そういった男性がこの施設に何名来るか、年間 100 人も来るだろうかということです。それよりは、子ども達に直接出前授業に行って、今の状況やあるいは色々な教材を渡してきちんと教育した方が、みんなが元気な健康な大人になるということを個々に言ってあげる必要があると思うので、これは教育問題でもあると思いますから学校でも色々悩んでみえる方が多いと思います。やはり役所というのは縦のつながりばかりが強調されて、横のつながりがほとんどできないというのが今までの状況ですが、竹上市長はそういった横のこともやると言ってみえますので、ぜひ健康づくり課だけではなく、教育委員会とも折衝されて、今は学校も色々な出前授業を待ってみえるところがたくさんあって、僕らが行くと、行く所行く所でいつでも言われ、受け入れ態勢はいくらでもできるはずなので、ぜひとも今までの概念にとらわれることなく、なおかつもっと広い意味で色々なことを進めていただきたいと個人的に思っております。
	委員	松阪市でもようやく 23 園、平成 30 年から小学校でフッ化物洗口が始まるわけですが、子ども達だけのためにやっているわけではないのです。この子ども達が大人になった時にいかに口の中が良いか、これが健康です。幼稚園、保育園の子が園をあげて積極的にやってくれているのですが、なかなか学校現場は遅々として進まないのが現実です。色々問題はありまじょうが、ぜひ子ども達のために協力していただければと思っております。少しでも健康格差のない子ども達を育てていきたいと思っておりますので、よろしくご協力のほどお願いしたいと思います。

	議長	学校現場の声としてご意見ございませんか。
	委員	学校が今まで開かなかったというところが、数年来から指摘され全国的に課題であったと思います。学習指導要領というのは全ての教育内容が文科省で網羅されて、それに基づいて学校は教育を行っていくスタイルになっております。その学習指導要領は10年毎に改訂されて、来年から先行実施に一部なります。今回のキーポイントといわれる文言が「社会に開かれた教育課程」です。つまり、学校の教育課程は全分野の学校の中核になるのですが、それを社会に開く中身になっております。私の学校では、社会に開かれた教育課程に合った形のコミュニティスクールを本格実施をいたします。このコミュニティスクールは、学校だけではなく地域や家庭と連携協働しながら教育を進めていく、地域の子どもは地域で育てるスタイルの主旨があります。今、先生方がおっしゃったようないわゆる健康面について、例えば学校の教育がそれを専門分野にはなかなか難しいところが正直あります。例えば、体の健康面について保健の領域ではうたえるわけですが、それより深いことについては難しいというのが正直ありますので、このコミュニティスクールの中では例えば地域人材とか専門の方を呼んで、子ども達に色んなものを指導していただく。当然指導するのは教師ですが、協働して行うというスタイルがその中心になってまいります。そういった流れが今後全国的にも広がってくるという形が教育の中の進んでいる内容です。それぞれの学校によって地域性もありますし、学校の中身もそれぞれありますが、文科省が示しているこれからの教育というのはそういう地域に開かれた学校、社会に開かれた学校が目指されるということについては間違いないという風に感じております。
	議長	第2次松阪市健康づくり計画策定記念講演会の講師をお勤めいただきました委員何かご意見ございませんか。
	委員	どこの市町の方でも一番問題になっているのは、どんな健康イベントをしても若い方と男性の方の参加が少ないということで、どうしたら若い方や男性の参加を得られるんだろうかという問題が1つと、成長期の子どもを持つ親に対する教育というのをもっともっと増やしてもいいのではないかと。運動習慣、食習慣等含めて運動嫌いの親には大体運動嫌いの

		子どもがおりまして、運動嫌いの子どものを作っているのは親が作っていると思うのです。最近特に思うのですが、子どもの体力測定ではなく運動機能健診があってもいいのではないかと。その健診を松阪市独自の健診内容を作っていって子どもの健全な成長を促すようなこと。また塾においても、子どもが自分で決めるよりも親が進んで決めていることが多くて、子ども達と話していると嫌々行っているとよく言っているのですが、私が運動体育会系の方から考えると、もっともっと子どもの運動習慣を身に付けていただけるような何かきっかけ作りをしていただきたいと思います。と思っています。
	委員	本当に子ども達の体力がないです。学校では文科省から学力学習状況調査という、いわゆる学力の部分の調査というのが毎年1回行われます。それと同時に全国体力調査があり、これも同じように国がやっており、全国の学校ではないですがいくつかの学校が抽出されて運動能力について、健康面に関わるところもある調査があります。本校に関しては、かなり体力面が弱いところが正直言って課題であります。データが出てくると、やはり全国平均よりもかなり低い部分があります。そういったことからすると、体力をつける、そして日頃から運動するというのは非常に大事なことだという意識づけをしていますが、先程も申し上げましたように学校だけでそれをやっていこうとするのはなかなか難しいです。今、家で子ども達が何をしているかというゲームをしており、なかなか昔のように外で遊んで活発に色んなことで遊ぶという時代ではなくなってきているので、これもやはり協働的な形で家庭と地域と一緒にあって、体力、運動面というのを充実させていく必要があると私自身思っております。
	議長	同じようにはるるでご講演いただき何かご意見はありますか。
	委員	私は食生活の方から講演させていただいたのですが、やはり食べることが健康と大変関連が深いということは周知の事実でございます。健康を担うのは、食と運動の両輪が働いて初めてなることではありますが、その中でもしっかりとバランスよく食べるとわかっているけれど、実際に行なっていない人が非常に多いという現状を感じています。講演会に来ていただく方は、ほとんどがそういうことに関心の高い

		方が多くて、大変理解もしていただけるわけですが、講演に来ていただけない方または無関心でいらっしゃる方は大変多いと思います。特に生活習慣病が増えてきている現状、しかも成長期、思春期にと低年齢化している現状などを考えますと、先程ご指摘があったようにやはり若い頃からの習慣づくりが必要と私も強く思っています。例えば、朝食などの欠食調査をしますとかなり三重県は欠食率が低いと出ているわけですが、中身を見ますと非常に好ましい朝食をとっている率が非常に少ない現状があります。例えば、菓子パンとかお菓子的なものを食べて、それでも食べてないよりは朝ごはんの代わりなんだというような認識を持っているような人も多いように思います。出来るだけバランスよく食べることの大切さを周知徹底していく必要があると思っています。そして、この第2次計画でも重点目標に上がっています“野菜をたっぷり”ということです。これは生活習慣病予防からも必要なことですが、全国平均を見てもやはり70～80gは平均値で少ないという現状が出ています。ですからかなり普及はしてきてはいますが、更にどうやるとどんな食べ方があるのか、季節の野菜の利用の仕方なども含めて、食改の人達、または私たち栄養士、食の専門家も含めて市民一般に具体的な形で伝えられる楽しい食べ方、おいしい食べ方、手軽な食べ方など具体的な提案が必要かなと思いました。そしてもう1つは、塩の摂取です。目標量がかなり減りました。その目標値を知っている率がかなり低かったように思います。もっともって啓発をしながら、どういう風にすると塩分を少なくできるのか、またそのことの意味も含めて啓発できる機会が増えてくるといいと思っています。当然ですが、学校教育の中でも先程出前講義がというお話もありましたが、色々な機会を通じて若い世代から子育て世代、そして働き盛りの世代も受けて情報発信をしていっていただきたいし、私達委員も出来るかぎり関わっていけたらと思いました。
	議長	食育についてご意見ございませんか。
	委員	食改としては、できるだけ地域に“野菜たっぷり”とか“減塩を”ということをアピールしていかなければいけないなと思いますがなかなか、今年度は目標としては高校生対象に減塩講座をやりたいと思ったのですが、高校生を対象にするというのは難しいなと非常に思いました。何とか学校教育の場

		の中にそういう考えをアピールしていけたらいいなと思います。今年度、食改として一つ高校の方にそういう講座をさせていただく機会がとれそうな話がきています。
	議長	それでは、健康センターはるるを拠点とした健康増進事業の実施について何かご意見ございませんか。
	委員	健康センターはるるが松阪の健康づくりの拠点というのは間違いのないことです。実際に色々やっけていただいていることも事実だと思いますが、健康や食事に関心を持っていたいている方は、催しにご参加いただくという機会をご自分から探したりして、あまり関心を持たれてみえない方はおのずとこういう催し物まで関心が及ばれない方が多いかと思ひますので、もちろんこのはるるを拠点にして色々やっけていくことをより充実していただくのと同時に、はるるの内容とひいうのをみなさんに知っていただく機会をこれからもより増やしていただき、例えば先週氏郷まつりがありましたが、市民の方が結構多く通られますので、はるるの情報発信をするようなブースを作るなど、はるるの場所でやるのも大事ですが、関心を持っていたきたいという事を情報発信していく事もどうかと思ひました。
	議長	薬剤師会ではるる健康セミナー等にご参加いただくのはどうなんですか。
	委員	地域の方に対して色んな啓発活動をするのを、以前から薬剤師会の中でもそういった事業がありまして、例えば松阪市さんや医師会さんがされる健康フェスティバルや歯と口腔の健康まつり、いろんなところにも薬剤師会が出させていだいていてるところでございます。そういったようにお声かけしていただきましたら、もちろん薬剤師会から色んな話でありますとか、もちろん喜んでさせていただきたいと思っております。それともう1点、学校や幼稚園にも学校薬剤師という職種がありまして、生徒さんの環境衛生、学校の環境衛生といった検査をさせていただいたり、環境衛生の増進にお手伝いをさせていただいておりますし、もう1点“お薬教室”というのがありまして、薬剤師等が赴いてお話をさせていただいております。“お薬教室”というのと“薬物乱用”がセットになって、どちらかというと“薬物乱用”が前に出ている部

		分があるかと思いますが、やはり健康に過ごしていただくためにはお薬を正しく使うことについてのお話もさせていただいています。この頃ですと医薬品の個人輸入とかをして健康被害にあうという事例もあったりします。お薬についての正しい知識というのも学校でさせていただいておりますし、そういった内容をここでさせていただくのも可能かなと機会がありましたらいつでもお申し付けください。
	議長	このはるるの運営について何かご意見ございませんか。
	委員	この松阪に限ったことではなく、どこの保健センターでも利用しているのは母子の事業を中心に来た方がほとんどで、男性の方の利用が非常に少ないと感じたところです。今回このはるるで火曜日にやっている体操には、大学の実習生も入らせていただいて、男性の方が多分退職された後、介護保険のお世話にはなっていないという年齢の方が何人かみえたのですが、他の事では男性の方を見かける機会がなくて、色んな意味でいっぺんにたくさんの事業を増やすことは難しいと思いますが、モデル事業的でいいと思うので、例えばどこかの企業さんと提携してもらって中小企業さんになると思うのですが、商工会等と連携をとり、その男性の方を対象にした何か体験的なイベントや健康セミナーをするとか、先程から話が出ている中高校生・先生に会う機会が全然ないのでモデル的な形で全部でなくていいと思うのです。松阪市さんは健康づくりに、色んな地区に自分達でやっていく人達を作っていくというモデル事業から始め、すごく時間がかかってたくさんの方の力を借りて、本当に松阪市さんは色んな地区で健康づくりの活動をされており1つの大きなテーマだと思います。中学生、高校生もどこかの学校でモデル的な形で、そういう子たちがお父さんお母さんになってから初めて知ったということではなく、小さい時からこの施設を身近に感じてもらうようなものを開催していくといいと思いました。
	議長	次に健康診査・がん検診についてご意見ございませんか。
	委員	先程説明の中にもありましたが、松阪市の検診受診率が非常に低いです。これをどうすればいいかということですが、やはりこういったことは周知する必要があると思います。広

		報まつさかといったものも確かに出ていますが、そんなにキャッチフレーズとかクローズアップして出るというのではなく、一つの文章の中にすーっと出てくるだけなので、そこに目が行かない。もう少し人目を引くような形でいかに検診を受けることが大事かということをきちんと言っていたかないと。こんなに検診の受診率が低いところは日本だけです。これは国民健康保険とか皆保険制度というのがあって、病気になっても決してそんなにお金はいらない、1/3の実費だけで済むんだという安心感があるのかもしれませんが、しかし病気で休まれると休む本人も困るし、その人が働いているところも労働力の損失という形ですごい経済効果があるわけで、いかに病気にさせないかというのが非常に大事だと思います。少し話は飛びますが、中学生のピロリ菌の検査をすることによって、年をとってから胃がんになる可能性を減らすことが、今松阪市の医師会と市と共同作業でやっていると思いますが、こういった先々を見て、2年先3年先ではなくて10年20年30年先を見てきちんとできるようなことを、だらだらと訴えるだけではなくて、しっかりと訴えるということが大事だと思います。私もケーブルテレビに出させていただいて、“検診を受けよう”とか“生活習慣病のこと”について話をさせていただいていますが、ケーブルテレビでは字幕放送の時間が長くて、きちんとアピールをする時間があまりない、もっと「ケーブルテレビのチャンネル見たら何か言うところぞ」ということを繰り返しできるようなテレビの運営を望みます。例えば時期的なことを言いますと、今はインフルエンザの時期ですからインフルエンザの予防をどうしようとか、2月3月になってくるとアレルギー性疾患があります。あるいは、その後はプール熱や眼科の疾患も出てくるし、熱中症であるとか時期的な色んな疾患が出てくるわけなので、発症する前にそういったことが起こりますよ予防をと、きちんと詰めて定期的にテレビで訴えかける、せっかくテレビというもので電波を流しているのですからもっと使う、あるいは広報をしっかりと使う、その辺はもう少し努力をしていただけるのではないかと考えますので、今後の問題点として頑張って解決していただきたいと思います。
	議長	ありがとうございました。事務局から何かありませんか。
	課長	本当にそのような形でケーブルテレビや関係機関で少し

		お話もさせていただいて取り組んでまいりたいと思います。
	議長	特定保健指導についてご意見ございませんか。 松阪市の場合では、市の保健師さんがしっかりやっていたいている分野であると思いますが、他の市町ではいわゆる特定の事業者に委託してやっていたいている市町があるかと思いますが、その件について事務局何かご意見ございませんか。
	課長	現状としてはそこまでは、誠に申し訳ないですが考えておりません。直営でやらさせていただく形で考えています。
	議長	ぜひとも直営で続けていただきたいと思います。
	議長	色々ご意見を伺いましたが、周産期から途切れのない支援と母子保健の推進について何かご意見ございませんか。 無いようでしたら、顧問から一括して総評をお願いしたいと思います。
	顧問	総評ではないですが2点あります。がんのところですが、胃がんで全国平均が6.3%で、三重県が3.6%で平均より上になっているみたい、これは本当なのか。乳がんも全国平均よりもだいぶ低いけれども9位とか、その辺がどういう意味かなと疑問に思っていたのですが。それはそれとして、例えば胃がんとか子宮頸がんとか、まず手っ取り早いところで行くと子宮頸がんが全国平均よりだいぶ低いようですので、まずそこから取り掛かるのでしたらなぜ松阪でこんなに低いのか、一回見直してみたらどうかと思います。乳がんに関しては全国平均と大体同じくらいなので、三重県よりは低い、この差はどこから出てきているのかが疑問に思っていたところです。そこから見直していく。何か悪いところが見つかれば検診受診率をあげることができるかもしれないし。もう1点、この会議以外で職域での会議に出ていまして、その職域の中で、最近その委員の1人の会社で20代の健康診断が多いそうで血液検査とか。20代なのでほとんど有所見は出ないだろうと思っていたら意外に、もう少し上の年代よりも有所見率が多く若い人でもあまり良くない。何でかと考えると、その会社は景気がいいらしく今、夜勤や残業がすごく多いのです。若いからつい無理してしまっって、当然帰日も遅

		くなって食生活が乱れてという状況で、残業が増えるときめんに有所見率があがったというお話です。その忙しい人達がこういう講演会になかなか来れないと思うのでそこをどうするか。まず中身としては“合計 60 分体を動かそう”というのは細切れでもいいということできており、次世代でご家族を通して、やはりお母さんもお子さんも巻き込んでやっていくしかないところですので、地道な活動になると思いますが、職域の方はいずれ定年退職していくわけですので全部に対しての若い世代から進めていっていただきたい。
	議長	ありがとうございました。 次に、協議事項（２）平成３０年度健康づくり事業実施計画（案）について、事務局より説明願います。
	事務局	事業実施計画（案）について説明
	議長	ただいま事務局より説明のありました平成３０年度の健康づくり事業実施計画（案）について、ご意見、ご質問はございませんか。
	委員	中学校・高校の中で、健康増進クラブとしてクラブ活動を立ち上げてはどうかと思います。運動、食事、薬の怖さ、薬の有効な服用の仕方、歯の 8020 運動をどうしてやっているのかなど、次世代につながる授業、次世代を健康へ導く活動も大切だと思っています。子どもから家族へ健康意識の改革が必要ではないかと、健康増進クラブで若者を育てることは、医療へ進みたい、福祉へ進みたいといった、人材発掘につながるのではないかと思います。
	委員	若年での出産や虐待のこととか、中高生の性の問題からつながってきていると思います。中高生に健康に関心を持ってもらい、思春期への教育が将来の子育てにつながっていくと思います。
	委員	自分を大切にする、自分の健康を守っていく、自分自身の基礎をつくるためにも、思春期をピックアップして取り組んでいただきたい。日曜セミナーや土曜日開催をされますが、働く世代にレクチャー式のものだけではなく、体験型・参加型のセミナーを開催するなどセミナーの仕方を工夫した、これ

15 : 00	委員	まででない形の展開を望みます。 食について、いつ食べるか時間との関係から時間栄養学が注目されています。夜勤や不規則な方への間食のとり方、分食のすすめなどアイデアの提案できるチームづくりもいいのではないのでしょうか。チームづくりの中で出来てきた、リーフレットを用いて活動を進めていくのもよいと思います。 子どものスポーツの推進について、松阪市は行政がスポーツ少年団の運営の仕方を研究してすすめていた時期もありましたが、今は運営は先生や父兄がやっております。体力測定でも今ではボールの投げ方から教えることから始めなければいけない、昔では考えられない。仲間と一緒に運動する松阪スポーツ少年団を推進して、いろんな種目をさせてあげる。仲間づくりで悪い方向へ進むのを止めてくれる友達もできる。松阪スポーツ少年団を市の事業としてきちっと進める。開かれた友達がいる環境づくりと体力向上につながる。
	議長	ありがとうございました。 以上、協議事項についてご審議いただきました。委員の皆様ご承認いただけますでしょうか。
	議長	ありがとうございます。 健康づくり事業につきましては、行政の取組み、各機関の連携は言うまでもなく、本日ご出席の委員の皆様方もそれぞれの分野における健康づくりの推進を一層お願いしたいと存じます。熱心なご審議をいただきありがとうございました。それでは、他に無いようでしたら協議を終えたいと思います。ご審議・ご協力ありがとうございました。 事務局お願いします。
	課長	ありがとうございました。 皆さまにいただきましたご意見を参考に健康づくりを推進していくとともに次年度計画にも反映してまいりたいと思います。 委員の皆さまにおかれましては、2年間にわたり健康づくり推進協議会委員としてご協力賜り誠にありがとうございました。今後とも健康づくりに関しまして、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

平成 29 年度松阪市健康づくり推進協議会委員

N o	氏 名	団 体 等	役職	備考	出欠
1	野 呂 純 一	松阪地区医師会	会長	会長	○
2	太 田 正 隆	松阪地区医師会	参与		○
3	長 井 雅 彦	松阪地区歯科医師会	会長	副会長	○
4	中 村 文 彦	松阪地区薬剤師会	副会長		○
5	村 林 恵 子	松阪中央総合病院	看護部長		欠
6	馬 場 啓 子	元三重中京大学短期大学部	元教授		○
7	水 谷 勝 美	松阪市自治会連合会	副会長		欠
8	堤 康 雄	松阪市民生委員児童委員協議会連合会	主任児童委員 部会長		欠
9	中 村 文 恵	松阪市食生活改善推進協議会	会長		○
1 0	横 井 美 登	徳和住民協議会	会長		欠
1 1	太 田 正 澄	健康づくり嬉野Uの会	会長		欠
1 2	平 岡 令 孝	厚生労働大臣認定 健康増進施設 (有) 平岡健康開発研究所	代表		○
1 3	山 路 由実子	鈴鹿医療科学大学	准教授		○
1 4	松 井 訓 子	南産婦人科	助産師長		欠
1 5	田 中 伸 之	松阪市小中学校長会	校長		○
1 6	三 宅 義 則	松阪市健康福祉部	部長		○
顧問	植 嶋 一 宗	松阪保健所	所長		○